

# 第2回全国佛教保育大會について

主催 関西仏教保育団体

後援 日本仏教保育協会

## 鳥 越 正 道

### (1) 日本仏教保育協会 の来歴

昭和の初め頃から、安藤正純氏を会長とする仏教保育協会は、機関誌「仏教保育」を出し、毎年夏期には、倉橋惣三氏、関寛之氏等を講師に、仏教保育講習会を盛大に開催していたが、戦争に妨げられ中絶の止むなきに至つた。

昭和廿一年十一月、東京女高師に於て開催された第一回の全国保育大会を機会に、各府県の仏教保育関係者の集りを持ち幼稚園、保育園を打つて一丸とする全国仏教保育連盟の名で再発見することとなり、その後毎年全国保育大会の開催地に於て会合し、講習会も毎年

開催する運びとなつた。

昭和廿五年十月、第一回全国仏教保育大会を山梨県身延山久遠寺に於て開催し、日本仏教保育協会と改称され、会長に椎尾弁匡博士を推し今日に及んでいる。

### (2) 大会開催の状況

第二回全国仏教保育大会は、十一月八日九日十日の三日間錦秋の仏都京都に於て開催され、会場には東本願寺議事堂があてられた。日本仏教保育協会としては更に組織強化の必要性が認められていたので、京都東福寺慧日幼稚園に事務局を大会準備委員長に高橋浩洲氏を挙げ、関西の仏教幼稚園、保育園の各団体が合同して主催し、協会はこの大会を後援するという形式をとつたのである。

そしてこの大会を契機として、幼稚園と保育園の別なく、宗派を超越し、全国仏教保育関係者の組織を強化し、積極的に協会充実の機会としたのである。

さてこの大会には、北は北海道より南は九州の涯に至るまで八百を越え九百名に近い多数の参加者を得、幸いにして三日間好天に恵まれて極めて盛会裡に終始することが出来た。

○第一日（十一月八日、土）仏教保育講習、開会式、午前九時

国歌斉唱、開会の辞について、大会委員長上田顕光氏より

挨拶があり、午前中は、左記の講習が催され受講者に多大の感銘をあたえた。

「幼児の宗教情操について」

東大講師 医学博士 黒丸正四郎氏

「仏教童話の扱い方」

久留島武彦氏

屋敷の休憩時間を利用して「仏教保育の歌」の歌唱指導を行った。

午後一時より四時まで、左記遊戯の講習がなされ、各講師の熱情溢るゝ指導と相俟つて非常に和やかに有意義であつた。

「仏教舞踊」

賀来琢磨氏、同和子女史  
伴奏 本多鉄磨氏

一方、午後一時よりは山内宮御殿を会場として、委員会が開催され、第二日の大会の運営を中心に、日本仏教保育協会の諸問題の検討、組織強化の方策等について慎重に審議された。

引きつゞき、午後四時から参加者の親睦を目的として、東本願寺枳殻邸に於て座談会が開かれた。史蹟名勝たる涉成園の雄大な風致を眺めながら、各地からそれ／＼感想が述べられ、最後に京都各国有志の「京都音頭」があつて和やかなうちに第一日を終つた。

○第二日（十一月九日、日）大会、協議会

開会式 午前九時、式典式辞、経過報告の後左記の通り進められた。

祝 辞 文部大臣 京都府知事 京都市長 京都各宗本山

代表

祝 電 厚生大臣 日本保育連合会委員長（倉橋惣三氏）

その他十余通

仏教保育の歌 参加者一同斉唱

議長、副議長選出、議長末広愛邦氏挨拶、協議案上程の後左記緊急動議が提出され、起草委員を挙げて可決した。

1、十日、皇太子成年式及び立太子の礼につき、大会の名をもつて、皇室に奉祝電報をもつてお慶び申上げること

2、大会宣言決議に関する件

記念講演 十一時～正午

新時代の仏教―保育面を主として―

日本仏教保育協会長 文博 椎尾弁匡氏

仏教讃歌コーラス 正午～零時廿分

京都仏教各大学合唱団

指揮 京都女大 上村けい女史

〔大会協議会〕 午後一時～四時

一、日本保育の祖として法均尼（和氣広虫）の顕彰運動を推進するの件

（東京高等保育学校、横浜聖徳保育学校提案）

可決 七名の委員に付託

二、仏教保育事業を援助する様各宗当局に対し懇請するの件  
仏教保育施設に設備資金の専門的融資機関或は互助的機関  
の設置についての構想あれば承り度し 以上二案

(神奈川仏教保育協議会、角田定證提案)

可決 実現については事務局に推進一任

三、仏教関係諸大学に保育に関する課程を設置し、或は仏教  
保育関係教師養成講習の開催等を要望するの件(神奈川仏  
教保育協議会提案) 保育従事者の仏教情操涵養に関する全  
国的運動を展開するの件(京都仏教保育会、広兼円澄提案)  
仏教的信念を有する幼稚園教諭、保母の育成に関する件(日  
本仏教保育協会東京支部提案)

可決 委員付託

四、仏教保育用讃仏歌及寛謠歌詞の新作懸賞募集及び歌集編  
纂の件(神奈川仏教保育協議会提案) 仏教共通の保育教材  
刊行に関する件 (日本仏教保育協会東京支部)  
仏教共通の日課及び年中行事要項の協定に関する件

(同 右)

可決 各府県一名宛の委員を常置して実現にあたる  
五、協会の組織強化についての方策に関し

- (1)、各都道府県仏教保育団体の諸活動に対する日本仏教保  
育協会の積極的指導方針を確立され度し
- (2)、仏教保育の組織強化に関し仏教保育関係者の名簿を緊

急に作製されたし (神奈川仏教保育協議会提案)

- (1)、については前日より既に委員会に於て慎重に審議され  
今回の大会を契機として充実することになつているので  
十分その希望に副うよう努力する。規約の変更、改正、  
役員の変更等委員、理事会に付託することに決定
- (2)、については (1)に当然含まるべき事項として諒承、整  
備に努力する。

以上の如く審議は行われ、つゞいて付託された各委員より  
実現又は強化に関する方策について報告があり、最後に今回  
大会の宣言案が左の通り拍手裡に可決された。

### 宣 言

さきに世界仏教徒会議が開催され、私達仏教徒の使命は世  
界平和、仏国土建設であると宣言された。

今茲に第二回全国仏教保育大会を仏都平安の都で開催する  
に当り参加者一同は左記の通り宣言する

- 一、私達はみ仏のみ光を仰ぎ一致団結してますます仏教保  
育に精進します。
- 一、私達はみ仏のお慈悲の心を持つて何時も幼児を清く素  
直に育てます。

右決議する

昭和二十七年十一月九日

第二回全国仏教保育大会

次回開催地としては、神奈川県に予定された旨発表があり、敵爾と歓喜の雰囲気の中に閉会式が挙げられた。散会後は各宗派の保育関係者懇談会が夫々各本山に於て行われ、全国各地よりの入浴を機に久闊を叙しあい、大いに氣勢をあげた。

○第三日（十一月十日、月）リクリエーション

二日間の講習、協議会の日程を終え、第三日はレクリエーションとしてA班は京都市内近郊を、B班は桃山、奈良、法隆寺等をいづれも紅葉、黄葉に美しく彩られた名所旧蹟を観光バスで見学、一日を思い出深く楽しくすごした。

かくて、仏子愛育の聖業にたづさわる、幼稚園と保育園が一つに結びあい、感銘深き三日間も漸く終りを告げ、三々五々次の再会を約し、名残りを惜しみつゝ、京洛の地を去り行き、第二回全国仏教保育大会は多大の成果を取めて無事終了した。

（記録者 京都、神泉幼稚園長）

（23頁から）

- 1、幼児の言葉の指導の在り方（長崎）
- 2、幼児の社会性の導き方（リ）
- 3、幼児の行動観察記録の方法及記録簿について承り度し（長崎県）

第三分科會

- 1、我が国幼稚園の現状で自由保育をどの程度に取り入れてよいか（宮崎県）
- 2、幼児面の在り方（熊本県）  
イ、見方 ロ、育て方 ハ、使用材料
- 3、幼稚園のカリキュラムは如何にあるべきか（佐賀県）

實地保育 大会をより有意義にする為に計画された実地保育は、各園に於て熱心な討議が行われ予期以上の効果をおさめることが出来た。

次期開催地 鹿児島県に決定

幼児畫展 大会期間中、熊本日々新聞社三階に於てアルゼンチン幼児画と共に、県下の幼児画展を開催した。参会者参百名をこえ盛会裡に会を閉じた。散会後市内觀光、翌十九日の阿蘇觀光（希望者）も晴天に恵まれ楽しい一日を過して大会の思出を深くした。

（熊本県幼稚園連盟会長）